



日本
吉野移民會社

5011

日本
移民合資會社契約書





日本

移民合資會社契約書

甲某以外何名ハ合資會社ヲ組織シ海外移民事業ヲ經營スル為メ契約ヲ締結スルコト左ノ如シ

第一章 總則

第一條 當會社ハ合資會社ノ規定ニ從ヒ合資會社

ヲ組織シ社名ヲ日本 移民合資會社ト稱ス

第二條 當會社ハ本店ヲ東京市京橋區新着町

十番地ニ設置ス

但シ營業ノ都合ニ依リ便宜ノ地ニ支店ヲ設置スルコト

アルベシ

第三條 當會社ノ存立時期ハ官許ヲ得タル日ヲ滿

三十七年トス

第四條 當會社ノ資本金ハ拾萬圓トシ其各社員

有限責任トス

大正十一年四月

英
氏名及生資額ハ左ノ如シ

一金何圓 甲某

一金何圓 乙某

一金何圓 丙某

一金何圓 丁某

第五條 當會社ノ資本金額ハ金拾萬圓ト定メ目

下其四ノ一即チ金貳萬五千圓ヲ社員ニ於テ之ヲ平等

ニ出資シ其殘額金七萬五千圓ハ社運ノ發達ニ伴ヒ漸

次出金スルモノトス

但シ本條出資金額ヲ受領シタルハ其ノ證書ヲ交附

スベシ

第六條 當會社ノ營業科目ハ左ノ如シ

一 海外各國ノ需用ニ應ジ出稼労働者ヲ媒介募集ス

一 雇主ノ注文ヲ受ケ食料衣服具ノ他ノ需要品ヲ賣買

シ運送ス

一 移民所得金為替ノ取扱ヲナス

一 移民貸錢ノ貸分ヲ契約預リ金トナシ又移民任意ノ他

ノ預リ金ヲ取扱フ

一 移民ノ希望ニ依リ出稼中ノ生命ヲ保障ス

第七條 當會社ニ於テ使用スル甲乙印章ハ左ノ如シ

甲  乙 

第八條 當會社ヨリ官廳ニ提出スル願伺届等ノ書類又

ハ當會社ヨリ捺スル契約證書類ハ甲社印ヲ押捺シ且ツ

業務担当社員之ニ署名押印シ為替券及預リ券其

他ハ乙社印ヲ押捺スベキモノトス

第二章 營業

第九條 當會社ハ移民出稼地及各府縣ニ本社ノ代理人ヲ置募募集及ビ出稼中移民ノ送金其他ノ業務ヲ取扱ハシム

但シ代理人ハ出稼人アル地方ニ限ル

第十條 當會社ノ營業時間ハ毎日午前九時ヨリ午後四時迄トス尤モ營業ノ都合ニ依リ之ヲ増加スルヲアルヤシ休業日ハ日曜日大祭日祝日ニ限ル尤モ止ムヲ得ガレ事故アル時ハ臨時休業ヲ為スコトヲ得

第三章 業務担当者

第十一條 當會社ハ業務担当者社員ヲ置ク

一 業務担当者

一名

二 理事

二名

第十二條 業務担当者ハ合同ニヨリテ當會社ノ營業一切ヲ處理スルノ権利ヲ有シ且其責ニ任スルモノトス

第十三條 業務担当者社員及理事ヲ撰任シ又ハ解任スルニハ總社員四分之三以上ノ多数決ニ依ル

第十四條 當會社ハ監督書記及其他ノ傭人ヲ置クコトヲ得其任免及人員ハ業務担当者社員之ヲ決ス

第十五條 監督書記及其他ノ傭人ハ業務担当者社員之ヲ指揮監督ス

第四章 社員ノ権利及義務

第十六條 社員ハ當會社ノ業務施行上ニ注意シ當會社ノ利益ニ害ニ及ビテハ何時タリトモ之ヲ返ルコトヲ得

第十七條 社員ハ營業時間中何時タリトモ其ノ營業ノ妨ゲヲ限リハ諸帳簿及諸書類ヲ按閲シ且ツ意見アル時ハ

之ヲ速ハルヲ得

第十八條 社員其ノ負担シタル出資ノ差入ヲ忘ラサルハ
當會社ニ出資額ニ對シ五錢日歩ヲ支払ハムベシ

第十九條 社員ハ當會社ノ繼續年限中其持分ノ払戻シヲ
要求スルコトヲ得ズ

第二十條 社員ハ改名改印又ハ住所ヲ移轉シタルハ速ニ當
會社ニ届出アズ

第五章 社員資格ノ得喪

第二十一條 社員若シ自個ノ持分ヲ他人ニ讓渡セントスルキハ
全社員ノ三分ノ二ノ許諾ヲ待テ後取得者ハ讓渡人ノ權利
義務ヲ襲得スルコトヲ得

第二十二條 持分ノ讓渡ヲ行ヒタル中持分ヲ払込ミタル領收
證ノ裏面ニ讓受人ノ氏名ヲ記載シ且ツ其讓渡ノ理由

ヲ併記スベシ

第六章 總會

第二十三條 總會ヲ分チテ通常總會及ビ臨時總會ノ二種ト
ス通常總會ハ滿半期ノ終リ即チ一月七日之ヲ招集シ臨
時總會ハ業務担当社員ニ於テ必要ト認メタルハ又ハ總社
員四分ノ一以上ノ合同ニ依リ要求シタル中之ヲ招集スルモノトス

第二十四條 通常總會ニ於テハ前半期ノ貸借對照表事
業報告書計算書利益金配當案等ヲ社員ニ提出シ
テ検査認定ヲ受ク其認定ハ出席員ノ多數決ニ依ル

第二十五條 臨時總會ニ於テハ通常總會ニ於テ議決スベキ
以外ノ事項ヲ議スルモノトス

第二十六條 臨時總會ニ於テハ總社員ノ過半數ヲ以テ決ス
左ノ事項ニ付テハ總社員ノ四分ノ三以上ノ多數決ニ依ル

一 契約ノ変更

一 新ニ入社スルモノアル片

一 社員其持分ヲ讓渡スニ非ズシテ退社セシムル片

一 任意ニ解散ヲ為ス片

第廿七條

總會ヲ招集スルニハ會日ヨリ少クモ七日前ニ各社員ニ會議ノ目的ヲ通知シ及提出スルハキ書類ヲ送付スルコトヲ要ス

但第廿三条ノ規定ニ依リ社員ヨリ臨時總會ノ招集

ヲ申出タル片ハ業務担当者社員ハ其申出タル日ヨリ五日

以内ニ招集ノ手續ヲナスヤシ

第廿八條

通常總會ハ總社員ノ三分ノ二以上出席スルニシテ

第廿九條

第廿六條ニ掲ケタル議決ニ要スル定数ノ社員及才

ハ八条ニ掲ケタル社員出席セザル場合ニ於テハ仮ニ決議ヲ為スコ

トヲ得此場合ニ於テハ其決議ヲ總社員ニ通知シテ總會ヨ

リ五日以内ニ再ニ總會ヲ招集ス且通知ニハ若シ第二總會

ニ於テ出席員ノ多数ヲ以テ第一總會ノ決議ヲ認可シタル

片ハ之ヲ有効トナスヤキ者ヲ明告スヤシ

第三十條

決議ノ多数ハ議長ヲ加フルヲ得ズトモ是レ可否

第三十一條

總會ノ議長ハ業務担当者社員ヲ以テ之ニ充ツ

但シ業務担当者社員事故アルカ又ハ會議ノ性質ニ依リ

業務担当者社員ヲ以テ議長トナスコト能ハザル片ハ出席員中

第三十二條

社員中事故アリテ總會ニ出席シ難キトキハ業務

担当者社員ヲ除キ他ノ社員代理ヲ委任スヤシ社員以外ノ

者ニ為シテ代理ノ委任ハ無効トス

但シ代理ノ委任ハ其ノ委任状ヲ以テ之ヲ証スヤシ

第三十三條 總會ニ於テ決議シタル件ハ之ヲ議事録ニ登載シ之ニ記名捺印シテ保存スヤシ

第七章 役員及傭人ノ給料及療養費

第三十四條 當會社ノ役員及傭人ハ有給トシ其ノ額及支給方法ハ總會ノ決議ニ依ル

第三十五條 役員及傭人ニシテ特ニ功勞アルモノニ限り總會ノ決議ヲ經テ賞金ヲ給与スルコトヲ得

但シ社員ニ配当スベキ利益金ノ年四割ニ滿タルハ賞与金ヲ給与スベカラズ

第八章 計算報告及帳簿

第三十六條 當會社ノ事業年度ヲ上半期下半期トナシ

上半期ヲ一月一日ヨリ六月三十日迄下半期ヲ七月一日ヨリ十二月三十一日迄トシ損益ノ決算ハ此半期ノ終リニ於テス

第三十七條 當會社ノ毎半期ノ終リニ於テ總利益金ノ内ヨリ一切ノ諸費ヲ引去リタル上十分ノ三ノ保護積立金ヲ為シ残余金ヲ純益金トナシ左ノ如ク配当ス

- 一 純益高十分ノ三 積立金
- 此積立金ハ營業上非常ニ損耗ヲ生シタル中消テ備

トシテ積立置クモノトス

- 一 同 十分ノ二 配當準備金

此ノ準備金ハ社員ノ配當金ニ一割未滿ノ并補充金トシテ積立テ置クモノトス

- 一 同 十分ノ二 役員賞与金
- 一 同 十分ノ三 社員配當金

第三十八條 社員配当金ハ其持分ニ應ジ一定年ホニ配ス
ハキモトス

第三十九條 社員ノ配当金ニ年一割ニ滿タルハ配当増上償

金ヲ瘡ニテ之ヲ補ト尚ホ不足ナルハ役員ノ功勞金ヲ瘡ニテ

之ヲ補ノ而ノ尚ホ不足ナルハ既ニ積立タル配当増上償金ヨリ

之ヲ補フベシ之ヲモ不足スルハ其次ニ配当シ他ヨリ之ヲ補フテ

許サズ

第四十條 社員ハ配当金年一割以上ニ當ルハ二割迄ヲ配当シ

其ノ過剩ハ配当増上償金ニ合セ置クベシ

第四十一條 利益配当ハ損失ニ依リテ生じタル減少ヲ補

填シタル後ニアラハ之ヲ為スコトヲ許サズ

第四十二條 當會社ハ毎半期ノ終リニ於テ財産目録及通告

總會ノ認定ヲ經タル貸借對照事業報告書ヲ計善書

利益金ノ配当表ヲ編造シタル實際報告書ヲ製シ各社

員ニ配付スル

第四十三條 當會社ハ毎半期ノ終リニ於テ現在員ノ住所氏名

及其持分高ヲ記載シタル社員名簿ヲ調製シ實際報告書

ト共ニ之ヲ各社員ニ配付スル

第四十四條 當會社ノ社員ニ入社退社等移動アルハ其ノ

社員ノ住所氏名持分高ヲ各社員ニ通知スル

第四十五條 當會社ハ社員名簿財産目録帳日記帳勘

定之帳其ノ他營業上必要ナル帳簿ヲ備フベシ

第九章 契約の変更

第四十六條 當會社ハ第六條第五項ノ決議方法ニ依リ

何時ニテモ契約ヲ変更スルコトヲ得

第十章 解善及精算

第四十七條 當會社第二十六條第四項ノ決議方法ニ依リ解
散スルコトヲ得

第四十八條 解散ノ決議ヲ為スト同時ニ總社員ノ多數ヲ以テ
精善二人以上ヲ撰定スルベシ

第四十九條 精善人ノ撰定スルトテハ董事若シテ社員ノ職
務ヲ解クヤレ

第五十條 精善人ハ何時ニテモ總會ヲ召集スルヲ得

第五十一條 精善人ハ會社ノ財産ヲ取集メ負債ヲ弁償シ
解散費用ヲ支払ヒ殘金アルハ社員七割高ニ應ジ分配
スベシ

第五十二條 右條ノ約ノ證トシテ各自署名捺印スルモノ也

昭和四年四月一日

原籍

氏名

印

